

2 6 斑点米カメムシ類

A 発生生態

- 1 斑点米カメムシ類にはクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、オオトゲシラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、アカスジカスミカメなど、多くの種類が含まれる。本県の主要種はクモヘリカメムシやアカスジカスミカメであるが、ミナミアオカメムシも増えている。
- 2 種類によって加害時期が異なるが、大部分の種類が周辺のイネ科雑草で増殖し、出穂期から水田に侵入する。侵入した成虫は産卵し、ふ化した幼虫が乳熟期から糊熟期に加害する。
- 3 登熟初期に加害された籾はシイナや不完全粒となるため、減収の原因となる。糊熟期以降に加害されると加害部分に変色し、いわゆる斑点米や黒色米、尻黒米などになり、等級低下の原因となる。
- 4 周辺より出穂が早い水田あるいは遅い水田は、被害が大きくなりやすい。特に、早期水稻地帯では出穂期の侵入には注意する。

クモヘリカメムシ 成虫



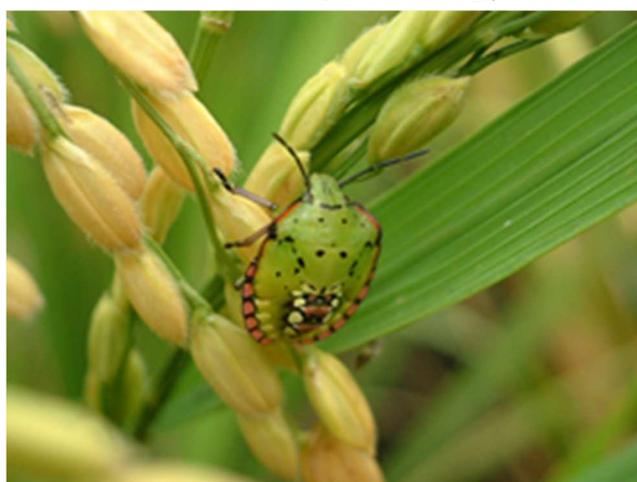
ホソハリカメムシ 成虫



ミナミアオカメムシ 成虫



ミナミアオカメムシ 幼虫



B 化学薬剤以外の防除方法

- 1 地域で作型や品種を統一し、出穂期を揃えることで被害を分散させる。
- 2 水田内や周辺のイネ科、タデ科雑草およびイネ科飼料作物は出穂の10～20日前までに刈り取るか除草する。ただし、出穂後に除草を行うと、カメムシが水田に侵入するので、出穂後は除草を行わない。
- 3 ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田については「休耕田」での使用に登録がある農薬を使用する。



農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入力してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！



C 薬剤防除のポイント

- 1 種類によって薬剤の効果が異なる。発生している種類を調べて、効果の高い薬剤を選定する。
- 2 ピレスロイド系（IRACコード：3A）はミナミアオカメムシに対して効果が劣る。またネオニコチノイド系（IRACコード：4A）はクモヘリカメムシに対して効果が劣る。
- 3 防除適期は、穂揃期とその7～10日後（乳熟期）の2回である。2回の防除で生存虫や新たな侵入が認められる場合は、穂揃期の14～20日後（糊熟期）に追加防除を行う。
- 4 地域で一斉防除を行うと効果が高い。



農業使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農業の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農業の検索システムへのアクセスはこちら！

